

O Estado 紙インタビュー記事邦訳

2007年7/17付け日本移民100周年特集

投資～第3の協力の波

日本人はグローバル競争のためにブラジルに関心

Jorge J.Okubaro

渡邊裕司は日伯経済関係の見通しを語る時、その興奮を隠さない。

日本移民100周年まで残すところ1年未満となった今ほど2国間関係が元気付けられることはなかった。日本の貿易投資促進機関ジェトロは常に在ブラジル日本企業の動向に関する情報を持つ。渡邊はいくつかのデータ、資料を示し次のように明言する：私たちは今、日本の第3の対伯投資の波にある。

渡邊は島内憲大使のお墨付きを得ているが、その大使は特に技術とエタノールの分野で両国関係に展望があると述べている。最近、訪日したロベルト・ロドリゲス元農相は東京訪問の機会を両国協力のチャンスと位置付ける。

ブラジル政府はエタノールの対日輸出に期待をかけているが、日本の有力企業のビヘイビヤ、判断プロセスを知る人達はこうした公の楽観的見方に否定的である。日本はブラジルからのエタノール輸入は非常に少ないうえ今後、大量に買う気配はない、とエネルギー・環境問題専門家の Alfred Szwarc は言う。日伯経済関係に詳しい元中銀理事、元 INCRA 総裁のエコノミスト Paulo Yokota も日本でブラジル産エタノールが大量に燃料として使用されることに懐疑的だが、将来、伯産エタノールを利用する大規模な化学産業が日本で興る可能性を指摘する。

渡邊の熱意は彼の置かれた立場から見て割引かねばならないのかもしれない。楽観論は渡邊のような立場の人の基本的な考えになり易い。投資、ビジネスを振興することが仕事だからだ。しかしながら彼が述べた中で特に具体的な数字や計画のいくつかは既に進行しつつあるか、公式に発表されたもので評価しうる根拠がある。

エタノールは重要だが唯一ではない

渡邊によれば今日の世界はブラジルで日本企業の投資の波が起きた過去とは非常に違うものである。先ず第1波では日本企業は国内市場への関心が大きかった。第2波は資源、食料などを日本市場に持ってゆくことに関心があった。しかし今日の第3波では日本はグローバル時代の大競争 megacompetição を勝ち抜くためにブラジルを必要としている。この場面ではエタノールは重要な要素ではあるが唯一ではない。

渡邊は世界第2の鉄鋼メーカー新日鉄の三村明夫を引き合いに出しブラジルは再び世界企業の関心の的となっていると語る。三村は新日鉄が早急に生産能力を増強し世界市場でシェアを高めねば野望に燃える世界の鉄鋼帝国アルセロール・ミタルに呑み込まれる（訳者注：敵対的買収にあう）事を知っている。早く企業価値を高め生残るために新日鉄はブ

ラジルへの巨額投資を決めた。投資先はウジミナス製鉄で新日鉄が 1950 年代の創設時にか
ら株主となっている企業である。新高炉建設を伴う設備拡張投資は 2010 年までに 5,000 億
円に達する。これは国際的にみても物凄い巨額であるが、渡邊は第 3 波の対伯投資はこれ
だけではないと言う。

更に鉄鋼分野で仏ヴァローレック社と住友金属のシームレス・パイプの一貫ベース（銑鋼
一貫）での合弁生産である。2,000 億円を投じミナス州のジャセアーバ市に高炉、製鋼工程
を建設する。

渡邊によればエネルギー分野でも重要な役割を日本企業は演じる。ペトロbrasと連携す
る三井物産は北東部で 10 億ドル規模の輸入液化天然ガスの受入れターミナル建設プロジェ
クトを進めた。三井はまたサン・ジョゼー・ドス・カンポスのエンリケ・ラージェ精油所
近代化向けの 9 億ドル融資に参加した。ゴイアス州からサンセバスチアン港までの、ブラ
ジルで初めて最大のエタノール輸送パイプライン建設でもペトロbrasと連携する。カン
ポ・グランデとパラナグア間 900km、20 億ドル規模のプロジェクトにも参加するかもしれ
ない。日本が燃料用にエタノールを実際に使用する将来に備え、三井・ペトロbras両者
は日本向け輸出用エタノール生産プロジェクト 40 以上について現在、F/S 中である。

量、金額的には小さいが他の大手総合商社もエタノール・ブームとバイオ燃料の波に乗っ
ている。エタノール・メーカー・サンマルチーニョは三菱商事に 10%株を売却しエタノー
ル販売契約を締結した。伊藤忠はサンフランシスコ河流域開発公社 Codevasf と連携し、丸
紅はアグレンコとバイオ・ジーゼル生産で合弁し（丸紅出資 400 万ドル）、2009 年に 4.8
億ドルを見込む。

そうは言ってもこういう話は都市部の消費者には余り関心がないかもしれないが、トヨタ、
ホンダの 2 大自動車メーカーの対伯投資は違いうだろう。日本車のいくつかのモデルは需要
が供給を上回る。

鉄鉱石、天然ガスの物流などにも日本企業は関心を示す。最近、三井、川崎、三菱、JBIC
はサンパウロローリオ間高速鉄道プロジェクトにも関心を示した。三井はサンパウロ地下鉄 4
号線建設にも出資している。

（文責：渡邊裕司）